

平成 21 年 5 月

恋猫の糸纏はぬ声を出し  
広告を兼ね店頭の新茶の香  
降水確率100%運動会  
航跡の萎めばたいら春の海  
五月てふ季語にちらつく躁と鬱  
凧の字は頬被りしてゐる木  
極月やきはめつきとは読まねども  
極太の嘴をならべて寒鴉  
こそ泥のやうに夜食のしのび足  
古茶の缶新茶の缶に棚譲る  
言の葉を文字に刻んで文化の日  
小鳥来るポストにコトリエアメール  
この町に住むほかはなし鳥雲に  
木の実落つ万有引力利用して  
このみかきのみか木の実の読み方は  
小春日を散りばめ週間予報かな  
狛犬の欠伸とまらず神の留守  
これがまあ自分の顔か初鏡

これはもう枝垂葉桜と云ふべきよ  
コンサートみたいに蚯蚓鳴くを待つ  
歳時記の冬篇取り出す冬支度  
歳時記にひらき癖つき八月尽  
賽銭の額の控えめ神の留守  
さう言へば蚕のかたち蚕豆は  
雑草と一線画し野菊かな  
差別用語すれすれの季語四月馬鹿  
爽やかな声出しとちリアナウンサー  
惨劇の現場さながら枯蓮田  
残雪の正体の水鍋に澄む  
秋刀魚の解剖お箸のメス揮ひ